

評価について考えよう

はじめに

2011年度冬季から2012年度冬季にかけて実施した中等日本語教師集中研修(国際交流基金ソウル日本文化センターおよび在釜山日本国総領事館主催)の内容を紹介します。

- 目標**
- ①JF 日本語教育スタンダードについて理解する。
 - ②遂行評価について考え、評価基準を作成し採点する体験を通して、評価する時の注意点を理解する。
 - ③学習項目に合わせた適切な試験問題の作成と適切な評価基準を作成できる。
 - ④参加者間での情報交換、意見交換を通し、ともに学び合う関係を作る。

- 内容**
- 体験 情報交換 ワークショップ**
- 打ち解け活動、アイデア・情報交換
 - ワークショップ、課題発表
 - 日本文化体験(漫画・伝統玩具と盆踊り・着付)
 - 質問コーナー、インターネットサイト紹介、教材展示

研修では、「遂行評価」の課題や評価基準を考えるためのワークショップを行いました。

JF 日本語教育スタンダードについて

- ・ JF 日本語教育スタンダードの全体像を理解する
- ・ can-do を理解する
- ・ JF 日本語教育スタンダードをコースデザインと評価に応用する

遂行評価について

- ・ 遂行評価とは？
- ・ 実践をふりかえろう

評価基準作成について

- ・ ルーブリックとは？
- ・ ルーブリックを使って評価してみよう
- ・ ルーブリックを作成してみよう



<<JF 日本語教育スタンダードについて >>

第1部 JF 日本語教育スタンダードとは？



定義

- JF スタンダードは、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価のし方を考えるためのツール
- JF スタンダードを使うことによって、日本語で何がどれだけできるかという熟達度がわかる。コースデザイン、教材開発、試験作成などにも活用できる



理念

- 「相互理解のための日本語」という理念のもと、国際交流基金は2005年からJF スタンダードの開発に着手
 - 価値観が多様化し、人と人との接触や交流が拡大する社会→ことばによるコミュニケーションの重要性の高まり
- ⇒課題遂行能力(その言語を使って何がどのようにできるか)と異文化理解能力(さまざまな文化に触れることでいかに視野を広げ他者の文化を理解して尊重するか)が必要

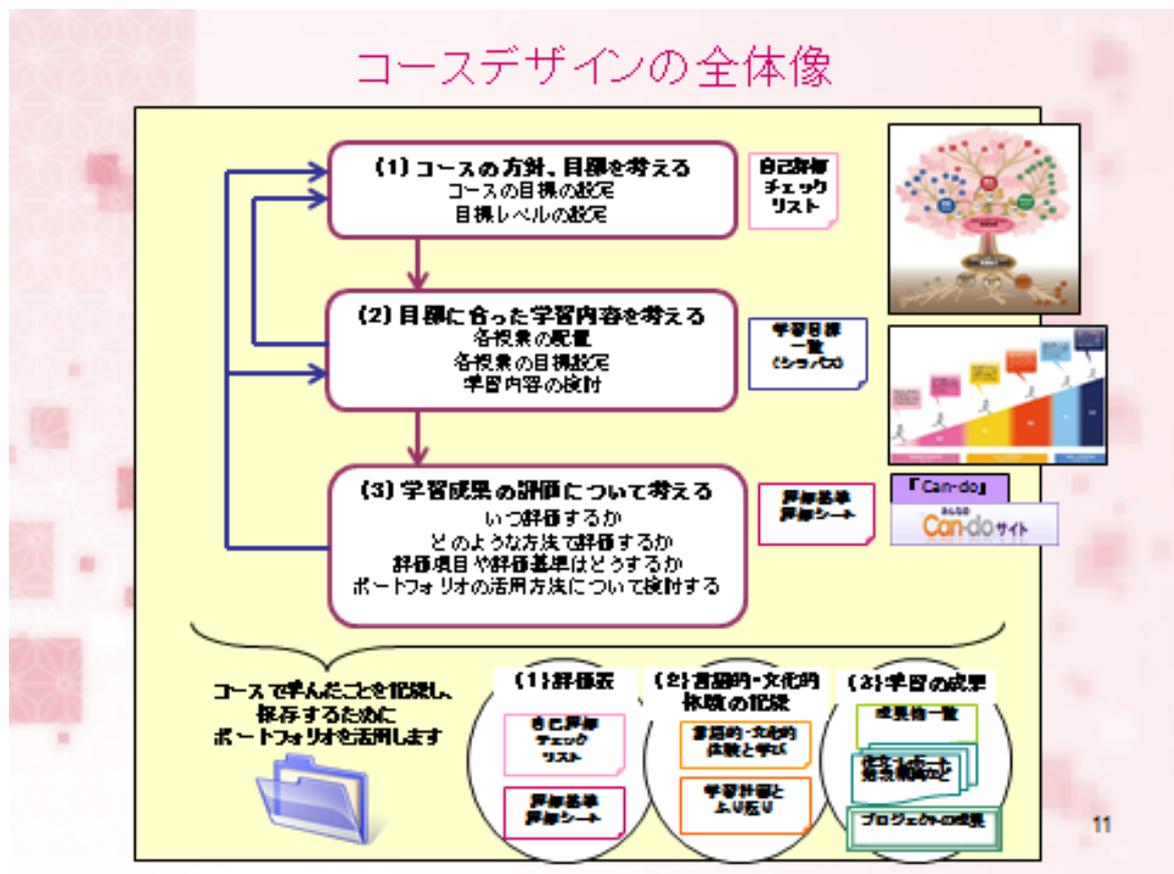


理解のための4つの柱

- ①JF スタンダードの木
 - ②6つのレベル
 - ③Can-do
 - ④ポートフォリオ
- *詳しくは参考文献をお読みください。

第2部 JF 日本語教育スタンダードを利用したコースデザインと評価方法

コースデザイン



➤ コースの方針、目標を考える

- コースの概要を理解する
- コースの目標を設定する
- 目標レベルを設定する

➤ コースの概要を理解する (たとえばこの学校は)

- 学習者・・・一般系高校 2年生 30名
- 学習歴/レベル・・・学習経験なし 入門レベル
- 学習目的・動機・・・学校で履修が決まっていたから。でも日本文化には興味がある
- 学習時間 集中履修制(1年と2年の1学期だけ)
1年生1学期60時間(4時間×15回)
- 使用教材 大韓教科書、エリンが挑戦にほんごできます

★この60時間を使って、何がわかる/できるようにさせたいか、教育課程や教科書の内容を考慮し、「JFスタンダードの木」を見て、コースの目標や伸ばしたい能力を考える

➤ **コース全体の目標**

日本人の考え方や習慣・文化について理解し、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などとの相違点や類似点に気づくことができる

➤ **目標レベルを設定する**

このコースの場合：学習者の現在のレベル・・・ゼロ
目標とするレベル・・・A1

たとえばこんな「A1レベルのCan-do（能力記述文）」があります。

◇部屋に飾ってある写真を見て、だれの写真か、場所はどこか、友人にたずねたり、答えたりすることができる。

◇パーティーやイベントで初めて会った人に、名前、出身、仕事などをたずねたり、答えたりすることができる。

◇友人と一緒に食事をしながら、「おいしいですね」などの感想を言ったり、感想をたずねたりすることができる。



評価方法

日本語が**か**できる人は日本語**で**（何かが）できる人
何がどのくらいできるのかを評価してみよう

➤ **評価の手順**

- 【1】 「Can-do」による学習目標に基づいたパフォーマンス課題を設定する
- 【2】 課題の到達目標を決める
- 【3】 評価の観点を決める
- 【4】 評価基準を決めて、評価シートを作る

上記の学校例：

1学期	遂行評価（ショートスピーチ・ノート検査）	：30%
	中間試験（第1課と第2課） 筆記	：35%
	期末試験（第3課と第4課） 筆記	：35%
2学期	遂行評価（先生と会話・ノート検査）	：30%
	中間試験（第5課と第6課） 筆記	：35%
	期末試験（第7課と第8課） 筆記	：35%

大切なのは、can-do を使って、コース（学習）の目標と学習の内容、そして学習を評価する方法（テスト）を一致させることです。



【1】「Can-do」による学習目標に基づいたパフォーマンス課題を設定する
例えばこんな can-do を使います。

A1→活動→産出→経験や物語を語る→自分と家族

「家族やペットの写真を見せながら、だれの写真か、場所はどこかなど、友人に紹介することができる」

【2】課題の到達目標を決める

皆さんの生徒は、「写真を見せながら」どのくらい話せますか？到達目標をイメージしてみましょう。

例① 産出（一人で話します）

皆さん、こんにちは。これは私の家族の写真です。3年前、家族と一緒に濟州島に行きました。お父さんの隣はお兄さんです。今大学2年生です。サッカーが好きです。わたしと同じ顔です。お父さんとお兄さんは海が好きです。でもお母さんは嫌いです。暑いですから。海で写真を撮りました。そのあとお母さんはホテルに帰りました。ホテルで寝ます。いいです。わたしとお父さんとお兄さんは海で遊びます。海が好きですから。

例② やりとり（友達と話します）

朴：林さん、見てください。これは私の家族の写真です。

林：あ、そうですか。ここはどこですか。

朴：濟州島です。

林：いつですか。

朴：3年前です。家族で行きました。

林：この人は誰ですか。

朴：わたしのお兄さんです。今大学2年生です。サッカーが好きです。わたしと同じ顔です。

【3】評価の観点を決める

①学習者に特に意識してほしい観点（先生ががんばって教えたところ）を重視

例：構成／社会言語的適切さ／文法・発音／

②課題遂行に必要な能力とは→「能力 can-do」（『みんなの Can-do サイト』）

参照（ただし、観察しやすい能力に焦点を）

③観点が多いと評価の負担が大きい

【4】評価基準を決めて、評価シートを作る

達成度 観点	1 がんばって！ 不可 C	2 もう少し！ 可 B	3 できた！ 良 A	4 素晴らしい！ 優 A+
内容				
語彙				
発音				
文法				38

達成度 観点	1 がんばって！ 不可 C	2 もう少し！ 可 B	3 できた！ 良 A	4 素晴らしい！ 優 A+
課題達成				
情報量				
話し方 パフォーマンス				
話す長さ				37

【3】評価基準を決めて、評価シートを作る

(1) 評価基準は課題提示と同時に学習者に提示

(2) 学習者の自己評価、他者評価に活用

達成度 観点	1	2	3	4
	がんばって！	もう少し！	できた！	すばらしい！
観点1				
観点2				
観点X				

(3) 何ができて、何ができていないのかがわかるフィードバック

【参考文献】

- 『JF 日本語教育スタンダード 2010 第二版』
<http://jfstandard.jp/summary/ja/render.do#docs>
- 『JF 日本語教育スタンダード 2010 第二版』 韓国語訳
http://jfstandard.jp/pdf/jfs2010_all_kr.pdf

<< 遂行評価について >>

遂行評価とは？



定義

評価者が、個々の学習者の学習過程の遂行過程及び結果を直接観察し、その観察の結果を専門的に判断する評価方法 新しい教育評価観により誕生

表1 従来の教育評価観と新しい教育評価観

区分	従来の教育評価	新しい教育評価
背景・概念	<ul style="list-style-type: none"> ・心理測定学 (psychometrics) ・個々人が学習によってどのように変化したのかに関してはほとんど注目せず、能力や特性などの個人の差そのものに関心を持つ学問 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知心理学 (cognitive psychology) ・人間の認知能力や探究方法に関する学問 (教育の目的、内容、方法の変化を認め、質的な評価を強調)
学習者観	<ul style="list-style-type: none"> ・経験論 (白紙説)、合理論 (生得説) ・個別の学習者は、教師が提示する客観的知識と情報を受動的に受け入れるか、単純に再生産する存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成主義、初心者-熟達者モデル (novice-expert model) ・知識は客観的な現実の複写物ではなく学習者個々の経験に基づいて構成される ・理論よりは実践的なアプローチ
学習観	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の強化 (reinforcement) により習慣化 ・知識、情報を段階的に習得した後、記憶、再生産する 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知構造の継続的な量的・質的变化を重視 ・教育内容は、学習状況と実際の社会的・文化的な脈絡のなかで組織
教育評価理論	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを選択 ・連続線上で個人の位置を推定することに主力をおく ・古典的検査理論、項目反応理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら答えを生産 ・宣言的 (declarative) または結果的な知識だけではなく、「手続き的 (procedural) (過程的、方法的) 知識」を重視 ・遂行評価



遂行評価の特徴

- ① 学生の知識・技能・態度を教師の専門的な判断によって評価
- ② 正答を選択するのではなく、自ら答えを作り出すことや表現することを評価
- ③ 目標到達度を可能な限り実際の状況で評価

- ④教授・学習の結果だけでなく、プロセスを重視
- ⑤学生の学習過程を診断し、それに合わせた個別学習を促す努力を重視
- ⑥個人の学習評価だけでなく、集団の学習評価も重視
- ⑦学生の変化や発達過程を総合的、継続的に評価
- ⑧認知的な領域だけでなく、個々の行動面での発達状況や関心、態度などの上位的な領域、運動機能などの領域に対する総合的で人格的な評価を重視



遂行評価の方式

多肢選択型問題、真偽問題、配合型問題以外のすべての方法で評価する方式

表2 遂行評価に含まれる評価方法の例

	遂行評価			
選択的反応要求	構成的反応	特定産出要求	特定活動要求	過程を開示
<ul style="list-style-type: none"> ・多肢選択型問題 ・真偽型問題 ・配合型問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成型(穴埋め)問題 ・短答型問題 ・図表や絵にタイトルをつける ・課題物提示 ・視覚的資料作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆 ・研究報告書 ・課題日誌 ・実験報告書 ・物語、脚本 ・詩 ・ポートフォリオ ・美術作品展示 ・科学プロジェクト ・模型構成 ・ビデオ、オーディオ構成 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭発表 ・ダンス、動作発表 ・科学実験試演 ・体育競技 ・演劇 ・討論 ・音楽発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭質問 ・観察 ・面談 ・会議 ・過程に対する記録 ・考える過程を言葉で表現 ・学習日誌



遂行評価の定義、特徴を見ながら、みなさんの実践をふりかえってみましょう

【参考文献】

- 白淳根（2011）『韓国における遂行評価の特徴と有用性』 指導と評価 2011年9月号
- 趙卿我（2011）『韓国の「遂行評価（performance assessment）」をめぐる政策動向の分析』 京都大学教育学研究科紀要 第57号

<<評価基準作成について >>

ルーブリックとは？

- パフォーマンスがどの程度成功しているかを採点するための、**評価基準**を示した採点指針を**ルーブリック**〔評価指標〕という。
- 成功の度合いを示す**尺度**と、尺度に示された**評点・評語**のそれぞれに対応するパフォーマンスの特徴を記した**記述語**からなる評価基準表である。

図1
ルーブリック例:「日本語能力試験 認定のめやす」

レベル	認定のめやす
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N4	基本的な日本語を理解することができる
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる

尺度 (N1-N5)

評点・評語 (N4)

記述語 (N3)

ルーブリックの種類

①全体的なルーブリック

⇒パフォーマンス全体に関しての一般的な記述語をもつもの（例：日本語能力試験「認定のめやす」図1）

②観点別のルーブリック

⇒パフォーマンスのそれぞれの側面について分析し、複数のルーブリックをもつもの（例：JFスタンダード利用者ガイドブックP.64 図2）

図2

【仕事と職業】 評価基準表

評価の観点	1 がんばって!	2 もう少し!	3 できた!	4 すばらしい!
内容・活動	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事がらを列挙して、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。
談話構成	ポイントを簡単に並べ「～て」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。	「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。	短いいくつかの要素を「まず」「～てから」「～場合」などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。	要点の組み立ては直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をするすることができる。
流暢さ	言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。	間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。	文法や語彙を正確に使用しようとすることが多いが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をするすることができる。	言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。
語彙	自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、日常生活上の交渉で行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、多少回りくどい言い方をしても自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事柄について、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。
文法	いくつかの文型を使うことができる。いつもくり返される基本的な間違いはあるが、何を言おうとしているのかはたいてい明らかである。	依然としてくり返される間違いはあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。	比較的前倒可能な状況で、頻りに使われる文型をだいたい正確に使うことができる。	母語の影響や強りも見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。
発音	明らかなる母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。	母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりとした発音で話すことができる。	ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手が理解できる程度にははっきりとした発音で話すことができる。	多少母語の発音の影響があつたり、発音を間違えることもあるが、相手がわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。



ループリック作りの手順

ループリックを作る際の手順としては、以下のようなものが挙げられる。

手順 A

- ①できるだけたくさん作品例を集める。
- ②「優れている」「普通」「努力を要する」の3グループに分類し、理由を書く。
- ③理由を観点別に分ける。
- ④それぞれの観点について、各点数の特徴を書く。

手順 B

評価基準に3つ以上の要素を含むものを選び、一番重要、二番目に重要な要素を選び、次のような表を作る。

	1	2	3
評価基準	1 番目の要素のみを含むもの	1 番目と 2 番目に重要な要素を含むもの	すべての要素を含むもの

手順 C

- ①評価基準に複数の要素を含むものを選んで、どちらを重視するかを選ぶ。
- ②重視した要素を A、他方の要素を B として次のような表を作る。

	1	2	3	4
評価基準	A も B も×	B は○だが A は×	A は○だが B は×	A も B も○



ループリックを作る際の留意点

- ①同じ観点に焦点を当てるものでなくてはならない。（一貫性）
- ②記述語は尺度の点数間にある質的な変化の程度が等しくなるように書く。（1点と2点の差=4点と5点の差）
- ③0点は、パフォーマンスが行われないなど、採点の対象外となる場合の点数である。
- ④一つの点数についての記述語に用いられている基準の言語は、他の点数についての記述語におけるものと対応するものとなる。
- ⑤記述語の作成にあたっては、パフォーマンスの長所と短所の両方に気を配ることが重要である。
- ⑥観点や基準をまず明確にし、**徴候（ちょうこう）**からは作り始めないようにする。

👉 「徴候」とは？

評価される特定のパフォーマンスに典型的みられる行動や形跡。基準が満たされた状況を具体的に示す特徴の例である。

- 【例】 基準： 人をひきつけるような話し方ができる
徴候： ①アイコンタクトを取る
②快活な声で話す
③聴衆や文脈に合わせて物語やユーモアを用いる



ワーク① ルーブリックで評価してみよう

課題 1：学習者 2 人の自己紹介の音声データを聞き、それぞれ「評価シート」を使用して評価してください。

※研修では実際に音声を聞いて評価してみました。

《達成目標》 初めて会った人に自己紹介をする。

《課題形式》 簡単なスピーチ形式。ただし、次の項目を必ず入れることとする。

①名前 ②学校名 ③学年 ④好きなもの(こと)

《評価の観点》 1) 活動内容 2) 文法的正確さ 3) 発音 4) 流暢さ

《尺度》 「もう少し」「できた」「素晴らしい」の3段階

《評価シート》

観点	もう少し!	できた!	素晴らしい!
活動内容 30%	名前、学校名、学年、好きなことを全部は述べる ことができなかった。 (15点)	名前、学校名、学年、好きなことについて述べる ことができた。 (23点)	名前、学校名、学年、好きなことについてはもち ろん、最初の挨拶や最後 の締めもきちんと述べる ことができた。 (30点)
文法的正確さ 20%	文法的な誤りが目立っ ていて理解しにくい部分 がある。 (10点)	若干の文法的誤りはあ るが、言いたいことは理解 できた。 (15点)	文法的な誤りはなく、言 いたいことが完全に理解 できた。 (20点)
発音 20%	発音やイントネーション 上に母語の訛りや、正し く発音できていない部分 が見られるがだいたい理 解はできた。 (10点)	発音やイントネーション 上に母語の訛りはある が、理解できた。 (15点)	発音やイントネーション 上に母語の訛りが少な く、非常によく理解でき た。 (20点)
流暢さ 30%	途中でブツ切れになっ たり、つかえたりして文 の流れが保たれていな い。 (15点)	途中で考えたりする間 はあるものの、文の流れは ある程度保たれている。 (23点)	不自然な間はあまり見 られず、文の流れが保た れている。 (30点)

課題2：このルーブリックの改善点を考えよう。

★尺度間の質的程度の差は同じだったか？

★この記述語でパフォーマンスが評価できたか？

(不適切な徴候や記述に入れるべき徴候はなかったか)

★他に考えうる観点はどんなものがあるか？

ワーク② ルーブリックを作成してみよう

課題1：下の試験問題について、《評価基準》の空欄部分を、各自で考えて記入してください。その後、他の人と話し合っ、評価基準を決定してください。

※ルーブリックを作る際の留意点を見ながら考えてください。

＜注意＞達成度は生徒の現在の状態と学習目標を考慮して。

できた(3)と言えるのはどのような状態か。

3を決めてから、4や2を考える。2を考えてから1を考える。

◆試験問題例

《目標》：学校生活についての簡単な情報を説明するための資料を作ることができる

《課題》：来週、学校に先生の友達の日本人が来ます。その人は日本の高校の先生で、韓国の高校生の生活に興味を持っています。その人に、学校生活について説明するための資料を作ってください。図や写真なども入れてください。

《注意》：作成のために、教科書やインターネットなどの資料を参考にしてもいいです。見る人が分かりやすい資料を作成してください。

《評価基準》：

達成度 評価項目	がんばって 1	もうすこし 2	できた 3	すばらしい 4
内容	学校生活についての情報が正確でないか、話題に関係がないため、何を伝えたいかよく分からない。	学校生活について、漠然と理解することができるが、説明が足りなくて、全体的に何を伝えたいか分かりにくい。	学校生活についてほぼ理解できるが、十分理解するためには説明が足りなかったり、確認しないと分からないこともある。	学校生活についての情報が具体的である程度詳しく書いてあり、何を伝えたいかが分かりやすい。
読み手への配慮			読み手にとって必要な情報や説明を書いていて、伝えたい内容がほぼ正確に伝わっている。	
語彙・文法			部分的に不適切な語彙や表現もあるが、何を伝えたいかは理解できる。	

課題2：作成した評価基準を使って、課題例の評価をしてください。

◆課題例

<A>

わたしがっこう

時間割表

月	火	水	木	金
1	英語 社会 算数 国語	社会 英語 算数 国語	社会 英語 算数 国語	社会 英語 算数 国語
2	体育 音楽 音楽 理科 算数	音楽 体育 音楽 理科 算数	音楽 体育 音楽 理科 算数	音楽 体育 音楽 理科 算数
3	家庭 理科 国語 体育 家庭			
4	社会 英語 道徳 算数 体育			
5	算数 算数 総合 国語			
6	クラブ 働工 学活 総合			

げつようび～きんようび
べんきょう
まいにち 21:00 まで
たいへんです。

としょかん べんきょう

まいにち いそがし
でも、たのし

しょくどう
おいし

8:30～

9:00～

12:30～

13:30～

20:00

<C>

8:00 ながつこうへ
いきます。



9:00 からべんきょうし
ます。
やすみは 10 ふんです。
12:00 までべんきょうし
ます。



12:00 からきゅうしょくを
たべます。しょくどうにた
べます。
3ねんせい が 1 ばんです。
おいしいです。



13:30 からべんきょうし
ます。20:00 までべんき
ょうします。
よるごはんもしょくど
うでたべます。
たくさんべんきょうし
ます。むずかしいです。



<D>

ソウルこうこう
せんせい おもしろい すき



評価をしてみて、どうでしたか？

評価をするときに迷った点、評価基準を変えるとしたらどの点を変えたらいいか、課題内容と評価基準の関連性など、気づいたことを話し合ってください。

ワーク③ 遂行評価の課題と評価基準を考えよう

課題：グループで、遂行評価のための課題を作成し、評価基準を考えてください。
できた作品をポスター形式で発表します。

【参考文献】

- 西岡加名恵（2003）『教科と総合に生かすポートフォリオ評価法—新たな評価基準創出に向けて—』図書文化
- 国際交流基金（2010）『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』